

い  
言われた <sup>かたち</sup> 形 で <sup>ぶん</sup> 文 を <sup>つく</sup> 作 っ て く だ さ い 。 な る べ く <sup>ことば</sup> ち が う 言 葉 を <sup>つか</sup> 使 い ま し ょ う 。

<くれい>

だれが (だれは)	どうする (どうした)。
<b>ぼくが</b>	<b>うたいます。</b>

だれが (だれは)	どうする (どうした)。
<b>わたしが</b>	

だれが (だれは)	どうする (どうした)。
<b>あなたは</b>	

だれが (だれは)	どうする (どうした)。
	<b>きます。</b>

だれが (だれは)	どうする (どうした)。
	<b>ころびました。</b>

だれが (だれは)	どうする (どうした)。

だれが (だれは)	どうする (どうした)。

**解答例** (※Sの答えは省略)

- ・わたしが たべます。 / わたしが ねる。 / わたしが 読んだ。
- ・あなたは 怒りました。 / あなたは おきる。 / あなたは 行きました。
- ・先生が きます。 / 友達は きます。
- ・いもうとが ころびました。 / おばさんは ころびました。
- ・おかあさんが はしります。 / お兄さんが 笑った。 / 佐藤くんは 泣きました。

※ 問題の指示した文型に従っていれば正解です。

**ポイント** 「だれが/どうする」の文型を身につけよう！

すべての文の基本となる「だれが/どうする」について学びます。文は基本的に主語と述語（これらの言葉を子供に覚えさせる必要は現時点ではありません）から成り立っていることを知り、それらを盛り込んで文を作る習慣を身につけましょう。尚、「～が」「～は」は「読む力のトレーニング」でも登場していますので、それを思い出しながら練習できると、さらに効果的です。

**指導上の注意**

- ・ 子供に余裕があれば、1度使った言葉は使わないようにして解かせてください。文を作ることでいっぱいいっぱいな場合は、同じ言葉を使っても構いません。
- ・ 柔軟な発想力を伸ばすためには、否定をしないことが1つのコツになります。否定されると「これはいいのかな。大丈夫かな。」と萎縮してしまい、アイデアが浮かびにくくなる傾向にあります。今回の練習は条件させ満たしていれば、基本的にはすべて正解です。良い子が書くような文を書く必要は必ずしもありませんので、自由に楽しく取り組ませましょう。

